後記

○今年度は、新型コロナウイルスによるパンデミックに翻弄された一年であった。おそらく多くの大学がそうであったように、駒澤大学においても、四月に入学式、オリエンテーションを実施することができず、新入生オリエンテーションを実施できたのは、十一月三日であった。また四月七日の緊急事態宣言により、授業開始は五月の連休明けからになり、その授業もすべてオンライン授業となった。大学キャンパスの風景は一変し、従来の対面授業やキャンパスライフを期待していた学生にはまことな気の毒な大学生活となり、急遽慣れないオンライン授業に対応することになった教員は、皆悪戦苦闘する羽目になった。一日も早い新型コロナの収束を願い、来年度は活気にあふれたキャンパスの姿が戻ることを切に願うものである。

○国文学科主催で例年行われている国文学大会も、新型コロナ禍の影響で中止せざるを得なかった。毎年、学外からお迎えする講師は、今年度は歌人で小説家の東直子先生にお願いする予定であった。東先生には昨年三月に講師をご依頼申し上げ、ご快諾をいただき「心を奏でる言葉」というたいへん魅力的なご演題まで頂戴していた。ご講演いただけたら、どんなに学生の心に響くお話をうかがうことができたであろうと思うと、中止のやむなきに至ったことは残念でならない。東先生にはたいへん申し訳なく、あらためてお詫び申し上げたい。

○本号は、専任教員四名による論文および研究ノートを掲載し、国語学、国文学、漢文学それぞれの分野の教員の論考によって構成することができた。そのうち三樹陽介先生、山口智弘先生は、今年度駒澤大学に着任された国文学科の新しいメンバーである。三樹先生のご専門は方言学で特に八丈島の方言研究をフィールドワークにしている。山口先生のご専門は荻生徂徠を中心とした江戸時代の思想研究である。山口先生は、本学では「漢文学」を担当している。今後の活躍が大いに期待されるお二人である。

（T）

編集委員　田中　徳定
　　三樹　陽介
　　山口　智弘